今どきの社会事情③
「インクルーシブ教育システム」

「インクルーシブ」は「包みこむ」「包括的な」と訳され、「障がいのある者と障がいのない者ができる限り共に学ぶ教育」を目指す体制作りを「インクルーシブ教育システム」といいます。

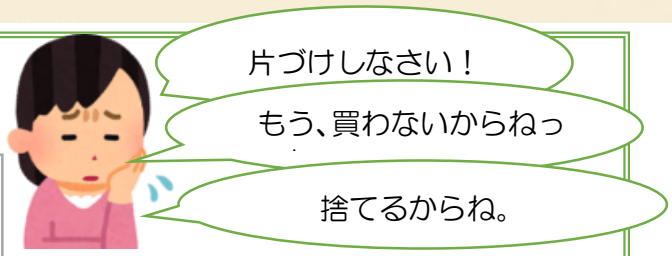
福島県では、平成２２年「第６次福島県総合教育計画」の中において「インクルーシブ教育システム」について言及され、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ体制作りを推進していくことが示されています。

本校でも、地域の小・中学校等への支援や地域の学校との交流学習、教育相談等を通して、特別支援教育の基本理念である「地域で共に学び、共に生きる教育」に向けた実践をしてきました。

障がいのある子どもが地域の学校で「共に学ぶ」ためには、校内や教室内の環境を整備したり、前号でふれた合理的配慮について本人、保護者、学校、学校の設置者が合意形成に向けてしっかり話し合ったりする必要があります。「共に学ぶ」ことで障がいの有無に関わらず、子どもたちは互いを理解しあうことになり、それがインクルーシブな社会、つまりは共生社会の実現につながるのです。

これからの共生社会の構築に向けて、特別支援学校のみならず、小・中学校、高等学校においても様々な取り組みが進められています。

Ｑ＆Ａ　～家庭のひとこま編～



Ｑ　片付けが苦手みたい。おもちゃも本も出しっぱなし。後から「ない、ない」と騒ぐのに…。

Ａ　すごいね！　きれいね

お子さんが片付けしやすい工夫をしてみましょう。

例えば、おもちゃはここ、本はここ、ゲームはここ、と片付ける場所を決め、ラベルを貼って分かりやすくすると、一人でも片づけがしやすくなりますね。文房具など細かな物は、トレー等に仕切りをつけて、鉛筆の場所、消しゴムの場所、はさみの場所とその物の置き場を決めることで、後で探しやすくもなります。初めはお子さんと一緒にやってみてください。やり終えたら「上手にできたね。」「きれいに片付いたね。」と賞賛しましょう。年末の大掃除の時期、ぜひご一緒に取組んでみてください。

編集後記　気づけば雪の季節。寒くなると大人も子どもも手足が冷えます。暖かくして、校内も地域もみんなで元気に冬を越したいものですね。よいお年をお迎えください。　（井上・鈴木）